

苗穂駅周辺まちづくり協議会

札幌苗穂地区の工場・記念館群

産業遺産を活用した 新しいまちづくりを展開

「サッポロビールや雪印乳業など多くの工場が集積し、古くから「産業のまち」として栄えた札幌苗穂地区」。近年、再開発の動きが活発化しているほか、地区内の工場記念館群が北海道遺産に選定されるなど、特色ある産業遺産を活用した新しい都市観光エリアとして注目を集めている。

「産業遺産を活用した新たなまちづくりを展開しよう」。この地の近隣住民企業などをつくる『苗穂駅周辺まちづくり協議会』では、内閣府都市再生本部の「平成17年度全国都市再生モデル調査」に応募。全国587件もの応募の中から、見事モデル地区に選定された。

自分たちのまちを 自分たちの手で

この調査事業は、地域が自ら考え、自ら行動する都市再生活動を、

国が予算や制度の面から支援するということ。「産業遺産を活用した都市観光の展開とコミュニティビジネスの創出」と掲げた同協議会の応募テーマは、苗穂地区内の産業遺産群などを活用したまちづくりを地域が主体となって取り組む、都市観光エリアとしての発展をめざすという内容だ。具体的な事業案として、産業遺産を軸としたツアープログラムの企画、ガイドマップの作成、ツアーガイド養成研修の実施などが挙げられている。

これまでに7回のワーキング会議を行い、具体的な話し合いを重ねてきた。また、ボランティアガイド先進地の視察や、実際に活躍するガイドを講師に招いたガイド養成研修会も行っている。参加した地域住民からは「まちを見直す、よいきっかけになった」という声や「ガイドをしてみたい」「この遺産を大いに語り継いでいきたい」という声も聞かれるなど、活動に対する興味が高まっている様子だ。

魅力ある観光地として 住みよい生活の場として

2006年3月には、協議会や地域での取組みなどを紹介するホームページ「はばたく苗穂」が完成。雪印乳業史料館、札幌村郷土記念館、サッポロビール博物館を巡るモデルツアーも開催され、地域住民が多数参加した。この3月には札幌市により「苗穂駅周辺地区まちづくり計画」が策定された。06年度以降は、JR苗穂駅周辺の具体的な整備の検討も開始される。

「観光エリアとしての発展はもちろん、住みよいまちをつくっていくために活動していきたい」と協議会のメンバーは口を揃える。自分たちが暮らすまちへの愛着と、高い行動力を持つ同協議会。地域活性化に向けた今後の活動が注目されている。



協議会が行った「苗穂産業遺産モデルツアー」には、たくさんの地域住民が参加。これはサッポロビール博物館内での見学風景(写真右)ガイド養成研修会に出席する地域住民たち。学習活動にも積極的だ(写真下)



開拓から続く「産業のまち」に、 もうひとつの歴史が刻まれる。